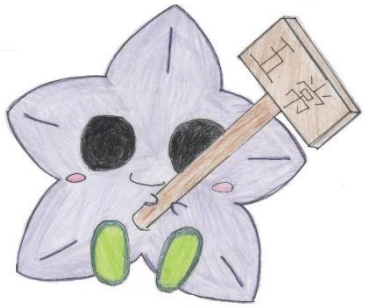
○学校経営の大きな軸



本年度の重点目標と重点課題

【スローガン】　毎日楽しい学校

【めざす学校像】児童が感動し、児童の期待に応える学校

【学校の使命】　児童が安心して楽しく通える安全な学校づくり

児童の確かな学力の育成、学力の向上

【重点目標】

自ら学び、自他を尊重し、仲間と高めあえる子の育成

1　安全安心な学校づくり

2　確かな学力の育成、学力の向上

3　児童の学びを支える学校・職場づくり

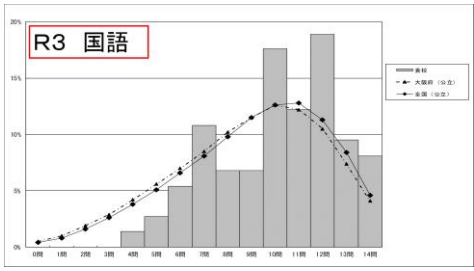
1　安全安心な学校づくり

●人権尊重　自他の尊重　イジメ未然防止・組織的早期対処

●不登校　登校再開だけではなく、幅広に「学力の保障」探る　児童の安全確認

●事故ケガ病気災害等不測の事態へ備える

●コロナ感染防止の徹底　学びの保障



2　確かな学力の育成、学力の向上

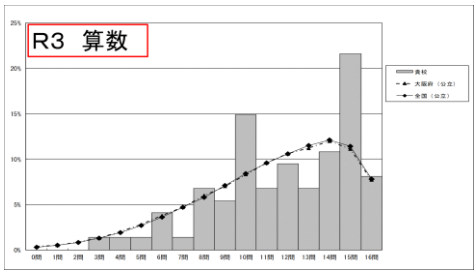
●国語・算数の基礎・基本習得の徹底

●主体的・対話的な深い学びの実現

●自律的な学び　自他の尊重　個別最適化された学び　協働的な学び

●英語4技能

●体力の向上



3　児童の学びを支える学校・職場づくり

●開かれた学校運営

→本校の問題・課題、情報を積極開示、発信する。

→さらにアクセス増を狙う。（R3年度は6万件のアクセス。目標；家庭数／日）

→保護者・地域社会の理解、信頼、支援を獲得する。

●児童の学びを支える健康な職場づくり

①服務規律の徹底

②時間を生み出す働き方改革

→業務削減・改善　モチベーション UP

③安全衛生（時間と健康の管理）

●人材育成　教職員が、共に学び、共に成長する風土づくり

※e.g.) ICT ツールの活用による保護者、担任の利便性向上

①→問い合わせの減少、伝達齟齬減少、クレームの減少

→担任、学校の負担減を狙う

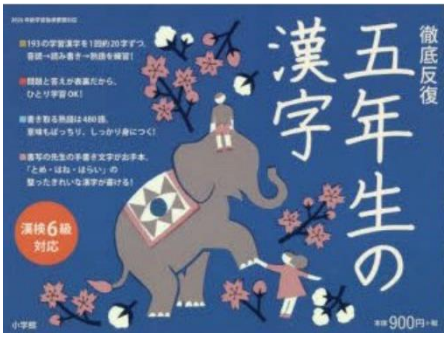
②→保護者、担任の時間確保

→家庭・学校で、子どもに向き合う時間の増加を狙う

【重点課題】(抜粋)

(1) 基礎・基本の徹底(音読・百ます計算・漢字前倒し学習=朝学習(オビタイム)を実施する。)(主要重点課題)

・反復練習によって全児童の基礎・基本力を高め、支援が必要な層への「個別指導」を強化する。



(3) 外国語教育の強化(E学習=オビタイム内)

・中学とのギャップを最小にし、4技能を高めるための学力向上策を実施する。

(4) 体力の向上

・正しい計測の意義を踏まえ、指導と練習を行った上で、全国体力テストを行う。

・体力向上のために、体育の時間に基礎トレーニングの時間を設ける。

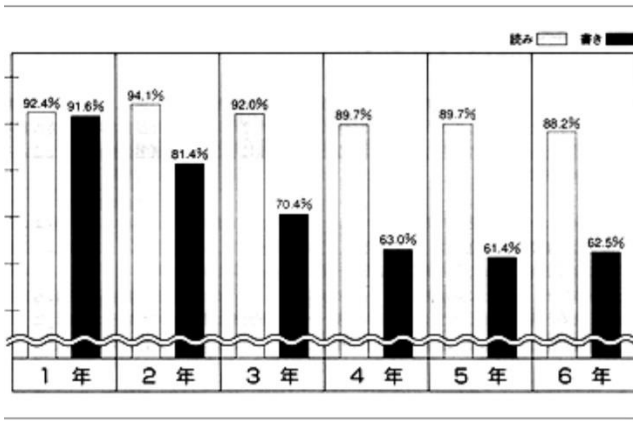
○R3全国学力テスト、漢字定着測定テストなどから言えること

摘要)

●全国学力テスト)本校児童のうち国語・算数において 27~36%が既につまずいているとみられる。

→読解力に課題がある。

●読解力の不足は、他の教科の理解に大きく影響する。



(全国平均→)

●漢字定着測定テスト)漢字の定着率は、各学年全国平均の数~10ポイント程度上であるが、2 年生以上を見ると、少なくとも38%の児童がつまずいているとみられる。

●国・算の基礎・基本力不足により、児童の50%以上が中学でなんらかのつまずきを経験する恐れがある。

○中学以降を見すえた学力

●読解力の重要性

府立高校入試（国語）は、論説文（2つ）・古文・漢文つまり文語的な文章の読解と、資料を読んでの作文が主である。さらに理科、社会、数学でも相当な量の問題文が出題される。つまり、中学校での授業、テストをはじめ高校入試に至るまで、読解力が重要になる。

●基礎基本の四則計算力　素早く正確に

中学校の数学のテストでは、解法がわかっていても基礎基本の四則計算が「素早く正確に」できなければ、目標得点に至らない。それは整数分野の計算問題をはじめ、図形、1次２次関数まですべてと言ってよい。

●内申点は中学1～3年の積み重ね

公立高校入試では、内申点が一定重視される。それは中学１年～3年の積み重ねであり、途中から上げてきたとしても、挽回には不利である。よって「児童の未来を最大限開く」には、中学校の最初からつまずきを生じないように、小学校で準備させることが重要になる。

問題文を読めていない生徒が半数以上

リーディングスキルテストは選択式の問題のみで構成されています。そのため、乱択(サイコロを振って答えを選ぶ)でも正解する可能性があります。ただし、「乱択より正解が多い、とはいえない受検者の割合」を計算することにより、その問題分野で「ほとんど解けない可能性がある生徒」の割合を推定できます。2018年に実施した調査では、係り受け解析の問題において「ほとんど解けない可能性がある生徒」の割合は中学3年生で15.6%、推論の問題も65.1%、具体例同定(理数)では70.7%に上りました。すなわち、中学生の半数以上は、なんらかの意味で問題文が読めていないことになります。

読解のプロセスに基づく問題分野別
ランダム解答よりも正答率が高いとはいえない生徒の割合

2018年3月実施調査結果より

問題分野	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年
係り受け解析	26.4%	20.4%	15.6%	10.4%	11.8%
照応解決	32.4%	23.3%	18.9%	9.8%	11.7%
同義文判定	67.5%	58.4%	43.7%	42.8%	55.2%
推論	80.3%	77.3%	65.1%	53.2%	51.1%
イメージ同定	45.5%	36.8%	23.8%	21.0%	25.3%
具体例同定 (辞書)	57.5%	48.4%	41.1%	43.6%	54.2%
具体例同定 (理数)	86.0%	75.7%	70.7%	53.8%	69.5%

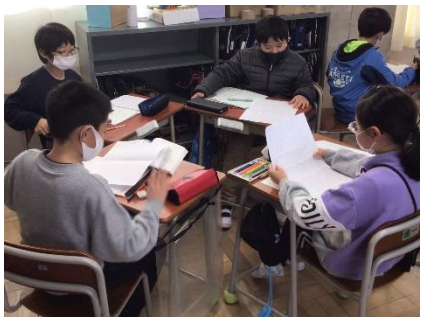
※参考）調査では生徒の半数が中学の教科書を読めていない。　（教育のための科学研究所↑）

本校では、国語の校内研究に見られるように、中学校の学習の基礎となる読解力について、授業でしっかり履修させている。また漢字・計算ドリルの宿題を定例化するなど、国・算の基礎基本の習得に力を入れてきた。他方、学テ等を見ると、一定割合の児童において、「定着」に課題が見られる。

※府立入試の漢字の読み・書き取りはどこから出題されるかご存じでしょうか？

今年度以降の学力向上策では、この「つまずきの恐れ」を極力少なくするとともに、児童に「将来への贈り物」を渡していきたいと思っています。

○追求する学力（特に国・算・英）
児童・保護者のニーズに応える学力
中学のニーズに応える学力（真の小中連携）
受験（中高）にも、したたかに対応する学力
将来五常の児童が有利になる学力（児童の未来を開く学力）



参考）
【枚方市の教育大綱前文】（抜粋）

『夢と志を持ち、可能性に挑戦する枚方のこどもの育成』
～子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす枚方の教育～

誰ひとり取り残さず、枚方市立学校園で学ぶすべての子どもたちが社会の大海原で自立して生きて行くことができるよう、集団生活や職業の体験、地域社会との関わりなど、で生きていくための準備の場として様々な体験の場を提供し、生きる力を育み、**未来への可能性をできる限り多く持たせたまま社会に送り出してあげることを枚方市の学校教育の使命**とし、“枚方のこども”を育成する。

参考）
【五常小学校教育計画】（抜粋）

知・徳・体のバランス良い成長が求められるが、その中でも、心の教育に最も重きを置きたい。学力の向上をめざすのは当然のこととして、日々の子どもの心を育てる学級経営を礎に学習活動に取り組むことが教育目標達成の鍵となる。

【重点目標】

自ら学び、自他を尊重し、仲間と高めあえる子の育成

本校では、素直で真面目に、一生懸命に日々の学習活動に取り組み、自らの力を存分に伸ばしている児童が多い。一方、他者を尊重することなく誹謗中傷を行ったり、遊び半分で他者をからかったりする事案が少なからず発生している。また、未知の場面、困難な場面に出会ったときに、自ら考え行動することを避け、消極的になったり、殻に閉じこもることも多々見られる。本校の最大の課題は、児童の「心の強さを育てること」と言える。

そこで、学校として、まず皆が認め合える学級経営をめざす。さらに、日々の学習活動において、教科学力（≒認知能力）を含む児童の総合的な生きる力（≒非認知能力）を高めていく。また、学校での学習と家庭での学習を通して、主体的・自律的に学ぶ力を習得させる。児童が自信をもって生き、自己と他者を尊重することの大切さを学び、仲間とともに大きく成長していくことを支援する。

本校は、以上のような本校児童の現状、保護者・地域のニーズ、そして枚方市教育大綱の理念を十分に踏まえた学校経営を行う。

「自ら学び」・・・・・・・・・・　主体的・自律的に学ぶ力をつける
「自他を尊重し」・・・・・・　自分の考えをきちんと他者に伝えるとともに、他者の考えを尊重する力をつける
「仲間と高めあえる」・・・仲間とともに、教科学力（≒認知能力）を含む児童の総合的な生きる力（≒非認知能力）をつける